

2013/07/30(火)15:28

授業コード	81U31
授業科目名	超領域研究プロジェクトIII (11)(前)
担当者名	真崎克彦(マサキ カツヒコ)
単位数	6
開講期別	2013年度 前期
曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	
オフィスアワー	
講義の内容	《テーマ》社会観を養う—今日の社会状況の背景、明日の社会像の展望 東日本大震災に象徴されるように、災害、環境問題、貧困などのグローバル・イシューは、もはや日本に住むわれわれにとって対岸の火事(=遠くの出来事)ではない。そうした中われわれには、「成長」や「進歩」の追求に力を入れてきた従来の社会のあり方をどう継承していくかよりは、これまでの「成長」「進歩」路線にとらわれず、より多くの人が安寧に過ごせる新たな社会をどう構築できるかが問われている。 そこで本授業ではまず、戦後の高度成長を経て築かれた「安定社会」がここ数十年間でどう崩れてきたかを学ぶ。その上で、グループ毎に社会問題の一つずつを選び、その是正に向けてわれわれが考えるべきこと／できることを研究発表してもらう。
到達目標	(1)今日の社会の根本的課題についての理解を深めることで、「総合的マネジメント能力」(=CUBEの理念、「自らの所属する組織、地域社会あるいは日常生活の中で(中略)問題の本質を見抜き、問題解決に向けた適切なアクションをやり抜く力」)の大切さを再認識し、それを向上させる意欲を高める。 (2)将来、会社や役所やNPOなどのスタッフとして、自営者として、あるいは市民として生きる上で、「社会はこうあってほしい」「そのためにこうした貢献をしたい」といった指針を持つことができるよう、社会観を養う。
講義方法	グループ発表を軸に進める。発表者もそれ以外の受講者も、全員が討論に積極的に参加することが求められる。受講者全員が宿題をしてきたことを前提に授業を進める。グループ発表に対するフィードバックペーパーも毎回提出してもらう。
準備学習	《第2～10回目》指定された教科書を読み、まとめ・コメントをA4用紙1枚に準備しておくことが求められる。発表担当者はパワーポイント資料を用意する。 《第6～15回目》発表担当者はパワーポイント資料を用意する。
成績評価	レポート(30%)、グループ発表(第1・2回 それぞれ20%)、平常点(30%)
欠席基準	授業実施回数の3分の1(端数は切り捨て)以上を欠席した場合は、単位を修得することができない(=「欠席」評価)。ただし「欠席」評価に該当しない場合でも、自動的に単位が修得できるわけではないので留意すること。
講義構成	《第1回目》講義 《第2～10回目》教科書(高原基彰『現代日本の転機』NHKブックス)を読み進め、今日の社会状況が生まれてきた経緯について理解を深める。 ・「超安定社会」の起源—高度成長・日本的経営・日本型福祉社会(第2章) ・多幸感の背後で進んだ変化—外圧・バブル・迷走(第3章) ・日本型新自由主義の展開—バブル崩壊後の日本社会(第4章) ・閉塞感の先に(終章) 《第11～15回目》具体的な社会問題の一つを選び(授業の趣旨に合うものであれば[震災復興、電力政策、非正規雇用、少子高齢化、成長の限界、いじめ、心の病など]何でも良い)、その対処・解決に向けて今の社会がどのように変わる必要があるのか、また、そのためにわれわれに何ができるのか、研究発表してもらう。
教科書	高原基彰『現代日本の転機』NHKブックス
参考書・資料	受講生の関心に応じて、随時紹介する。
講義関連事項	履修条件は以下の通り。 (1)宿題やグループワークに真剣に取り組む意志が固いこと。 (2)授業中の討論に積極的に参加する心づもりがあること。 (3)「総合的マネジメント能力」を伸ばす意欲があること。 * フィールドワーク(ブータンでの夏季体験学習)参加者は本プロジェクトの受講が義務付けられる。なぜ同国の国民総幸福量(GNH)政策が今の日本社会で注目されるのか、その背景を理解してもらうためである。
担当者から一言	ここ数年ブータンでの調査に力を入れてきましたが、人どうしや人と自然の結びつきを大事にする暮らしから、われわれの社会を「豊か」にする上で多くのヒントが得られると実感しています。東日本大震災支援で企業の社会貢献が注目されたことに示されるように、今日「社会的な正しさ」がますます要請される時代を迎えまし

	た。一緒に「社会的な正しさ」を考えましょう。
その他	
ホームページタイトル	
URL	